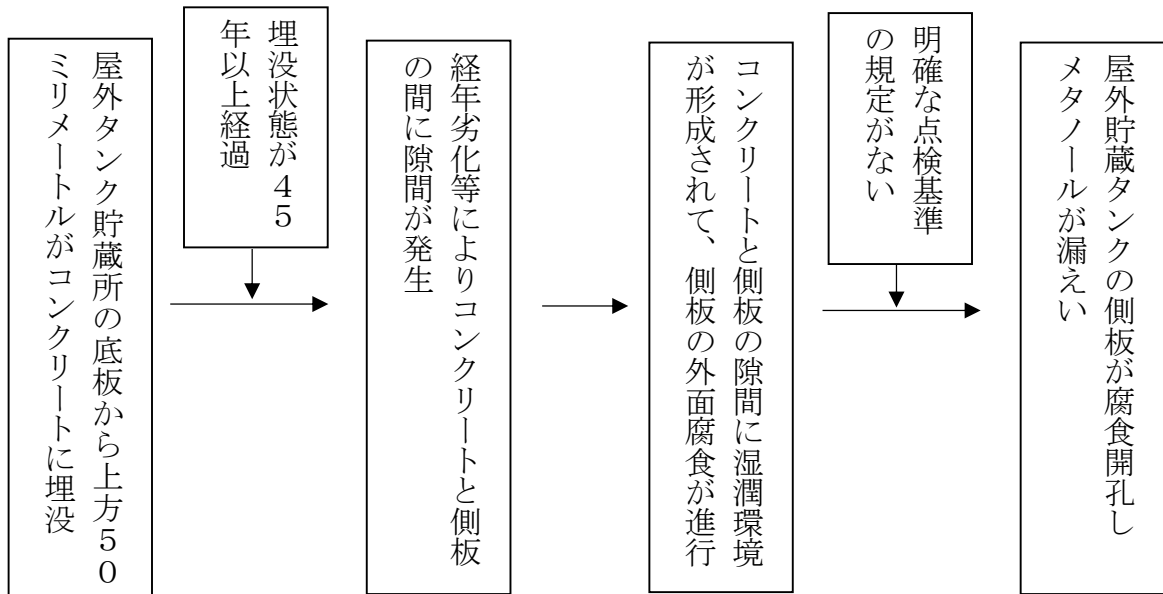


屋外貯蔵タンクの埋没部分からの危険物漏えい

発生年月日	令和7年3月6日(木) 10時15分頃		
業態	化学製品製造業	施設装置名	屋外タンク貯蔵所
機器名	屋外タンク貯蔵所	部位	底部
運転状況	貯蔵中	作業状態	貯蔵中
物質名	第4類アルコール類 メタノール(劇物)	発火源	
直接原因	腐食疲労等劣化	間接原因	維持管理不十分
人的被害	なし	物的被害	メタノール約1,237L漏えい

(事故形態)



被災・影響範囲 防油堤内に約1,237L漏えい

(事故概要)

作業員が日常点検のため事業所内を巡回中、発災タンク底部から、内容物のメタノールが漏えいしていることを発見し、上長に報告して119番通報を行ったもの。

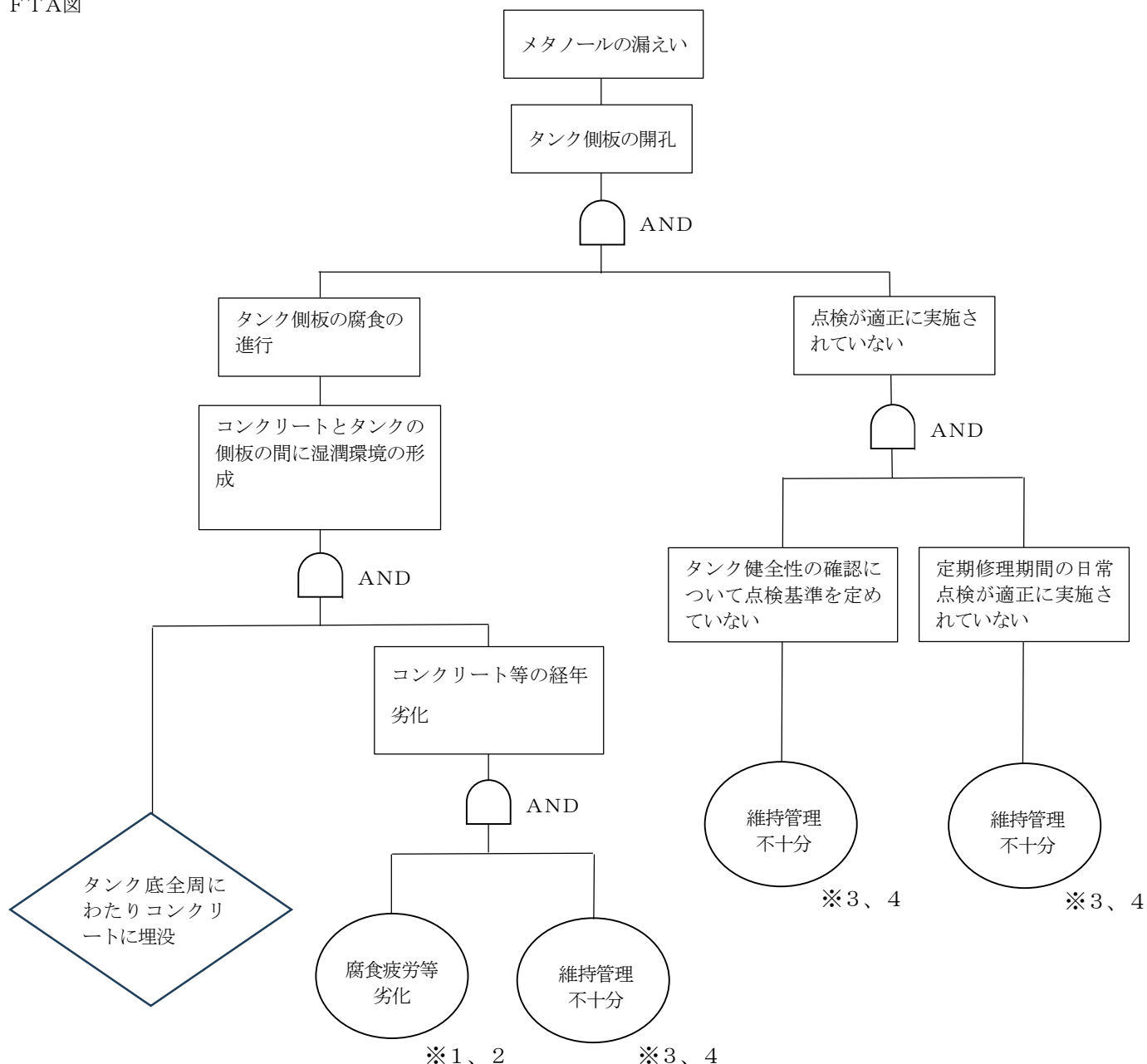
(事故原因)

発災タンクの側板最下段の一部(底板から上方約50mmの側板全周)及び底板張出し部については、昭和54年以前からコンクリートに埋没した状況となっており、発災当時約45年以上が経過していたため、経年劣化等によりコンクリートと側板の間に隙間が生じて雨水が容易に浸入できる状態となっていた。これにより、埋没部に長年の湿潤環境が形成されて、側板の外面腐食が進行し、さらに外面からの腐食状況等の視認ができていなかったことから当該部分に開孔が生じ、漏えいに至ったもの。

(再発防止対策)

F T A図に記載のとおり

FTA図



【再発防止対策】

※1 タンク本体の更新

令和7年度内に許可申請を行い、基礎を整備して埋没状況を改善し、タンク本体をステンレス製で更新を実施する予定である。

※2 他の埋没タンクの措置及び監視体制

当該タンクの他に5基の埋没タンクが設置されている。これらのタンクの側板埋没部は、外面腐食が進行していることが想定されるため、事業所は令和11年度までを目途に、概ね1年で1基ごとに、タンクを更新する予定である。

また、更新までの間に外面腐食が進行して、M-5タンク同様の漏えいが懸念されるため、全埋没タンクの板厚測定を実施し板厚が薄い箇所は板屋替え、肉盛り補修を実施するとともに、毎日各タンクの液面管理で、液位に異常がないことを現場での目視点検と併せて確認する。さらに、漏えいの予兆を含む異常が認められた場

合、直ちにタンク内容物を抜き出して洗浄することとしている。

※3 日常点検等の見直し

事故発生まで、製造部門は、事業所内の定期修理期間中の荷動きがない期間については、屋外タンク貯蔵所だけでなく、他の危険物施設についても日常点検を実施していなかった。このため、当該期間中にも通常の日常点検を実施するように同部門の点検基準を見直した。

また、日常点検以外の管理であるタンク健全性の確認検査については、今後貯槽の更新計画と共に事業所内部で検討し、基準等の改訂又は新規に策定する予定である。

※4 事業所職員への教育

M-5タンクに関係する3つの部門の職員に対して、今回の事象の原因、応急対策及び恒久対策に関する内容に加え、屋外タンク貯蔵所の仕様等に関する事項について教育を行った。また、その他の従業員全体には、毎年7月に開催している「全体保安教育」で実施する予定である。